

白樺派のカレー

Vol. 1

白樺派のカレー物語

そのむかし、大正時代のころでした。
本宮はゆいゆい白樺派の文人達が暮らす鎮と、活発な創作活動をしていた頃の物語です。
当時としては革新的な食文化の登場であったカレーが、
なんと、ここ武蔵野で作られていたのです。
そのカレーを作ったのは、物・菓子という声楽家でした。
菓子は白樺派の中心人物であった尾形 武江と、尾形山の工務店にほんでいました。
そこで美味しいカレーを作って、本宮派や武蔵野の町民にふるまっていたのです。
ここがその頃ですが、そのカレーには、肉豆蔻（ナターター）の風味で、
同じ味の調味料が入っているのです。
今、大正時代の香り高いそのカレーが、九十年の歳月を経て、再び武蔵野の地に現れました。

— 文 —

武蔵野における白樺派文人達の定跡を、新たな角度から考えたい。
そんな思いで九十年の尾形さんのカレーを再現しました。
歴史と文化に基づく「白樺派のカレー」の再現を記念として、
食の安全、地産地消、地域振興などにつなげていきます。
このカレーでは、地元の野菜と味噌、国産の肉を使用しています。



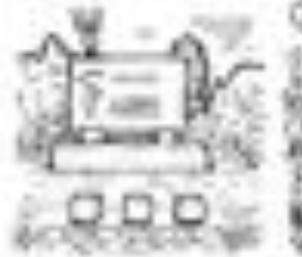
武蔵野



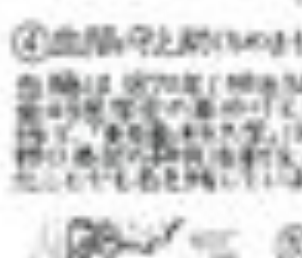
① 甲武若小路文藝館 (Kawakubo Ongeikan) ◆
 武蔵野の文藝館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



② 武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆
 武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



③ 武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆
 武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



④ 武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆
 武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



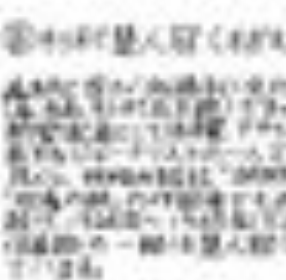
⑤ 武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆
 武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



⑥ 三軒茶屋 (Sanjanyaya) ◆
 三軒茶屋は、武蔵野の文芸界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



⑦ 武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆
 武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



⑧ 武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆
 武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。

白鷺流の文芸館

武蔵野の文芸界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆

武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆

武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



武蔵野文芸館 (Musashino Ongeikan) ◆

武蔵野の文芸館。1920年代に建てられた、武蔵野の文藝界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。



柳井子ってどんな人?



柳井子 (やないしよ) は、1892年(明治25年)に生まれました。彼女は、武蔵野の文芸界の中心地。ここでは、多くの作家が創作活動を行い、交流した。館内には、当時の文芸資料や、作家の遺品などが展示されている。

白樺派のカレー

Vol. 2

白樺派のカレー物語

そのほか、大正時代のことで、
手賀沼の白樺派の文人達が暮らして、洋食を創作活動をして、大塚の美味いカレーが、
当時としては先進的な大塚の事情であったカレーが、
なんと、ここ真田子で作られていたのです。
そのカレーを作ったのは、柳 兼子という声楽家でした。
兼子は白樺派の中心人物であった森田 宗太郎、丸神山の三浦派に属していました。
そこで美味しいカレーを作っては、志賀直哉や武者小路実篤達にふるまっていたのです。
ふるまひの種ですが、そのカレーは、梅田家・トナー・トナーの真実で、
陸軍の味付けが入っていたのです。

今、大塚の町の奥の奥の奥のカレーが、九十年の歳月を経て、再び真田子の地に咲きました。

真田子カレー

日本に上る白樺派文人達の足跡を、新たな角度から考え、
大塚の歴史をたどり、九十年前の柳兼子さんのカレーを再現しました。
大塚の歴史に基づき「白樺派のカレー」の再現を起点として、
食の安全、地産地消、地域振興などにつなげていきます。
このカレーでは、国産の肉・野菜・味噌も使用しています。

